

令和8年度 つながる懇談会(①第1回、②第2回)【報告】

日 時:① 令和8年7月 29 日(水)午後2時～午後4時
② 令和8年7月 30 日(木)午後2時～午後4時

会 場:① カフェいろいろびより(国分寺市南町 1-14-7 プラウド国分寺 1F)
② なみき牧場(国分寺市並木町 2-11-5)

参加者:① 37 名(うち参加者 24 名、社協職員 13 名)
② 40名(うち参加者28名、社協職員 11 名、武蔵野大学 実習生 1 名)

内 容:① まちの仲間とテーマを持ち寄って自由にゆる～くお話ししましょう。
出入り自由。聴くだけ OK。
② 集まれ！なみき牧場～みんなで話そう 地域と防災～
子どもから大人まで、誰でも気軽に参加できる交流の場です。防災食を食べながら
一緒にお話ししましょう。

【第1回 カフェいろいろびより(東地区)】

(1) 開会あいさつ

(2) 参加者自己紹介「今日の私が話したいテーマはこれ！」

参加者に「話したい」もしくは「聞きたい」ことをご自身でボードに書いてもらい、30秒ずつ自己紹介を行った。また互いの呼び名もニックネームとし話しやすさを重視した。



話すのが苦手な方は「なんでも聞きたい！」のボードも用意し安心して参加できる場を提供した。

他に「話したい」のテーマとして

- ・乳幼児親子の居場所や遊び場 ・ネオ盆踊り
- ・助け合いのしくみづくり ・学校と学びの場
- ・地域のつながり ・スタッフの増やし方
- ・人生の楽しみ などがあつた。

また「聞きたい」のテーマとして

- ・お祭りのスケジュール ・イベントの周知方法
- ・国分寺のおすすめの場所 ・地元愛 などがあつた。



(3) グループワーク①「近いテーマの人たちで話そう・聞こう」

参加者同士でボードを見せ合い、自分が話したい・聞きたいテーマと近い方とその場でグループを作ってもらった。2～6人のグループが自然とでき、職員も参加し談話した。



(4) グループワーク②「このテーマでもっと話したい・聞きたい」

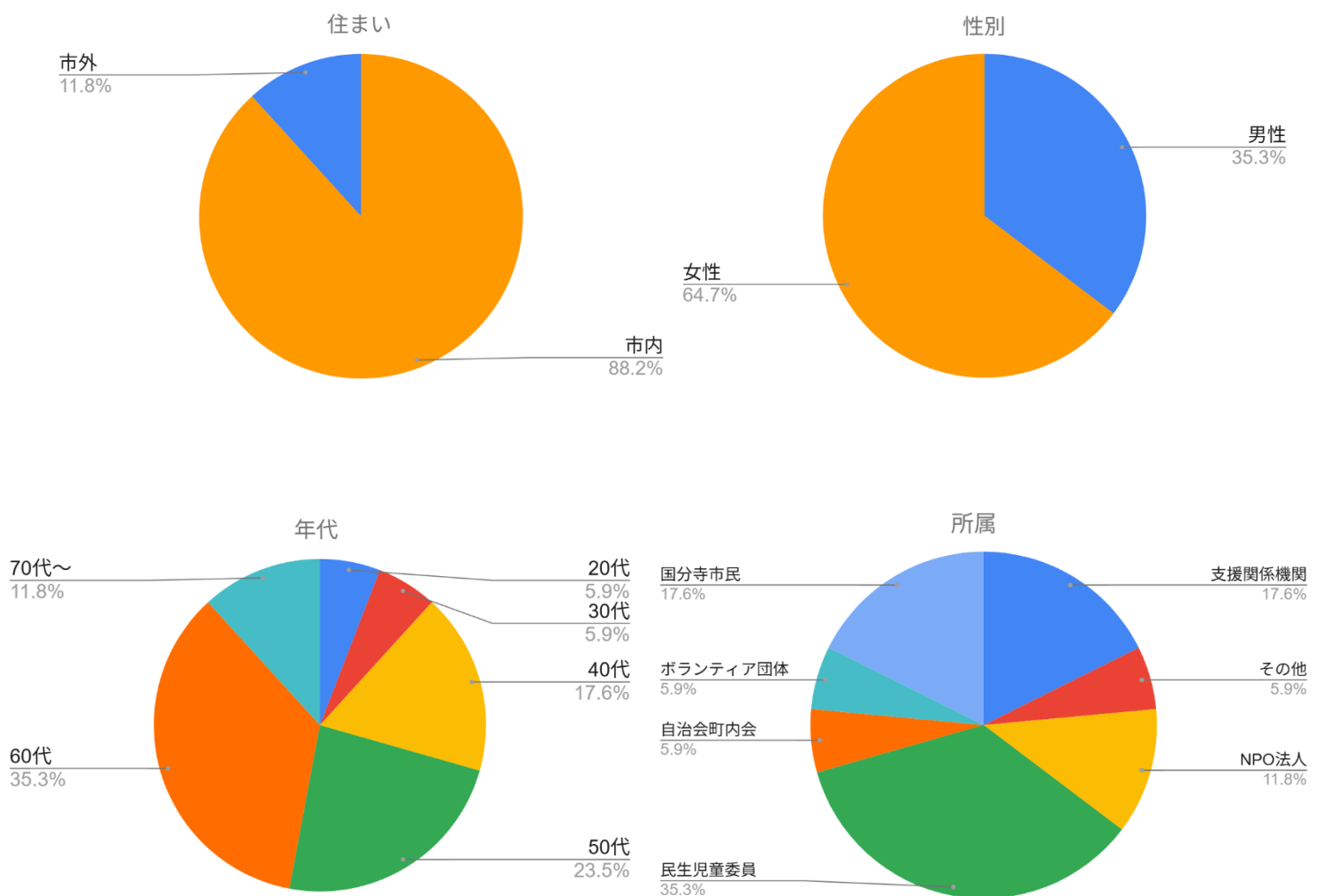
多くの方と交流することを目的に途中でグループ移動も可としたところ、多くの方が席移動し、新たな参加者とグループを作り懇談することができた。懇談の内容は多岐にわたり、それぞれが思い思いに話し、聞いていた。



(5) 全体共有・質疑応答

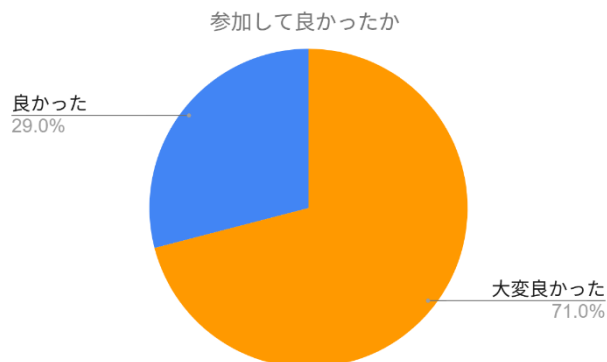
グループごとのまとめや発表ではなく、全体で共有したいことがある方に発言をお願いしたところ4名の方から共有があった。

【アンケートのまとめ】 回答 17 名(回収率 70%)



(理由)

- ・地域の活動されている皆さまとゆるく繋がって
いけること。
- ・皆さんに相談したことで応援いただけてありがた
かったです！
- ・ゆーっと参加できるのが良かったのですが、真剣
なお話し合いができて良かったです。
- ・いろいろ聞けて参考になりました。
- ・自分のテーマを話せたから。
- ・色々な世代、背景の人々とお話しできました。
- ・様々な立場の人に会えるのが楽しい。
- ・地域の話をしき機会がないので色々新鮮でした。
- ・地域の方の生の声を聴くことができた。グループワークも白熱し非常に盛り上がった。
- ・意外な方にお会いできました。
- ・地域のさまざまな方と意見交換できました。地域課題など難しいことは置いておき、自由に意見交
換、情報交換できてとても楽しかったです。支援機関の職員だけでなく、地域で暮らしている方で、
地域の生活や見守りは成り立っているな…。と改めて感じることができました。企画お疲れ様でし
た。ありがとうございました。



(今後の懇談会のテーマとして取り上げたいこと)

- ・空き家の活用を広める。
- ・今回とても話しやすかったです！
- ・市内の企業にも参加してもらう会。
- ・出入り自由、聴くだけ OK が良かったです。
- ・「自治会」いつからあるの？誰が作った？あつて当たり前？受け継がなきゃいけないの？入らない
のはなぜ？

【所感】

あえてテーマを設けず、参加者が話したいこと、聞きたいことを持ち寄り、自由にグループをつくっ
てもらう形式で開催した。このような形で開催するのは初めての試みだったが、参加者は積極的にグ
ループをつくり歓談に花を咲かせていた。特に結論を出したりまとめたりする必要がない分、話すこ
と、聞くことに集中でき、参加者は安心してその場をともに過ごすことができたのではないだろう
か。アンケートでは「聴くだけ OK、出入り自由が良かった」という感想もあり、何もしなくてもただそ
こにいて良い場を必要とする方がいることが分かった。

また今回は市内のカフェを会場に選定した。アットホームな空間の演出だけでなく、地域貢献活動を

行っているカフェを使用することでカフェの広報の一助にもなり、その後方支援が地域福祉活動の推進となり、社協事業との連携強化や財源確保へと循環するのではないかと考えている。
今後もテーマや形式、会場選定の工夫等、地区担当 PT で協議し進めていきたい。

【第2回なみき牧場(西地区)】

(1)開会あいさつ

(2)「令和7年度つながる懇談会」の振り返りと本日の流れ

(3)参加者自己紹介(お名前、ご所属、防災食を食べた感想)

(4)グループワーク

①「防災マップを見て気づいたこと、感じたことを共有しよう」



□1グループ

- 地域ごとの災害リスク(火災・水害・地形)の違いを確認。
- 新町・内藤地区では住宅密集や坂道・階段が多く、緊急車両の進入や避難に課題がある。
- 避難所の位置や他市への避難も視野に入れる必要性を共有。

□2グループ

- 防災拠点の配置や自治会ごとの防災体制に地域差があることが課題。
- 防災会や防災活動の状況を可視化する必要性を提案。
- ペット同行避難や防災訓練の参加者固定化について意見交換。

□3 グループ

- 防災マップを活用し、井戸やアンダーパスなど地域資源・危険箇所を確認。
- 在宅避難の重要性や住宅の耐震性について理解を深めた。
- 子ども連れ避難や避難所備蓄(子ども用品不足)など、実際の避難生活を想定した課題を共有。

□4 グループ

- 避難場所を事前に家族で確認し、実際に下見しておくことの重要性を確認。
- 井戸など生活用水の活用や、地域の水害リスクについて意見交換。
- 広域避難場所の少なさや避難先の確保が課題として挙がった。

□5グループ

- 初動対応では避難場所や備蓄、水資源、要援護者支援の確認が重要であることを共有。
- 地域によっては近隣自治体の避難所活用も有効との意見があった。
- 防災マップを活用し、地域資源や避難経路を事前に把握する必要性を確認。



②「つながることが防災？」

- ・隣近所とのつながりや、普段頼れる人や場所はありますか？
- ・普段のつながりは、災害時にどのように役立つと思いますか？

□1グループ

- 自治会加入者でも日頃の交流は少なく、つながりをつくる「きっかけ」が重要。
- 防災訓練を通じたつながりはある一方、自治会未加入者や若い世代との関わりづくりが課題。
- 自治会加入のメリットが伝わりにくく、防災以外の魅力や参加しやすい仕組みが求められている。
- ひきこもりなど地域とつながりにくい人への支援や、災害時に SOS を出せる仕組みが必要。
- 避難所運営は住民同士の協力が不可欠であり、防災は世代を超えて共助を育むテーマである。



□2グループ

- 自治会や防災会は祭りや地域行事を通じて交流を広げている。
- 日頃の挨拶や顔の見える関係づくりが、防災・防犯の両面で重要。
- 災害時は公助だけでなく、共助の力が最も大切であるとの認識が共有された。
- 地域の実情に応じて近隣住民への関心を持つことがつながりの第一歩。
- 市境を越えた広域での連携も必要との意見があった。



□3グループ

- 地域のつながりの希薄化が進む中、共助の重要性が高まっている。

- 高齢化が進む地域では担い手不足が課題であり、若い世代の参加が求められる。
- 子育て世帯は共働きなどにより地域活動への参加が難しい現状がある。
- 世代によって情報取得手段が異なり、紙媒体と SNS を使い分けた情報発信が必要。
- 懇談会を通じて地域の情報や課題を知ることができ、有意義な機会となった。



□4グループ

- 防災と地域のつながりは切り離せず、普段からの関係づくりが災害時の支えになる。
- 災害時には近隣住民が最も頼れる存在になる。
- 共助の前提として、一人ひとりが備えを行う「自助」が重要。
- 自治会の減少が進む中、趣味や関心などを通じた新たなコミュニティの可能性が示された。



□5グループ

- 地域によって関わり方は異なるが、多くの人が顔見知りや頼れる相手を持っていた。
- 日頃は挨拶程度でも、地域活動や趣味など様々な形でゆるやかなつながりが生まれている。
- 自治会活動には必要性を感じつつも、負担感を抱える人も多い。
- 災害時は日頃から相手を知っていることが助け合いにつながる。
- 防犯意識の高まりから深い近所付き合いは難しい一方、無理のない「ゆるやかなつながり」が防災にも有効との意見があった。



(5)全体共有・質疑応答

グループごとに上記の内容をまとめた発表を行った。

【つながる交流会】

懇談会の終了後は、参加者同士の情報交換や名刺交換、活動紹介のチラシ配布など、自由につながる場を設けた。



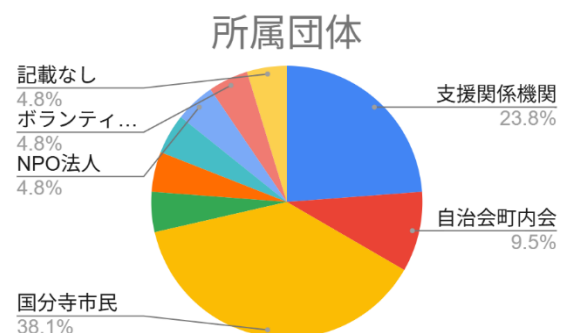
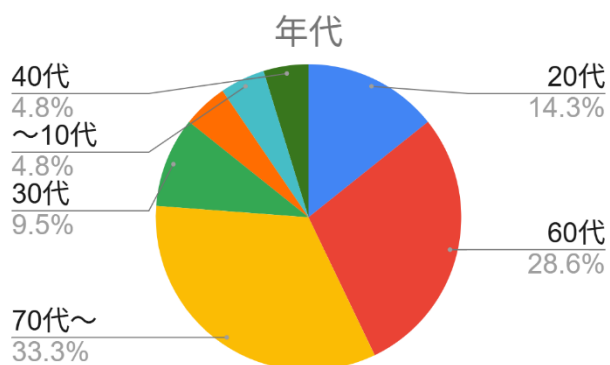
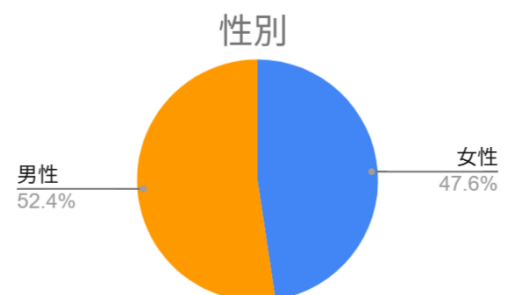
【ぶじダブル】

グループワーク時に「ぶじダブル」も試食をしました。

「ぶじダブル」は、国分寺高校の防災探求チームが、地元の『こくベジ』を活用して開発した防災食です。普段からおいしく食べながら備蓄する『ローリングストック』の考えを広めることを目的としており、地域と高校生が連携した新しい防災の取り組みとして注目されています。また、全国の高校生が地域課題の解決に挑む「ふるさとイノベーションプログラム東日本サミット」で最優秀賞を受賞しています。



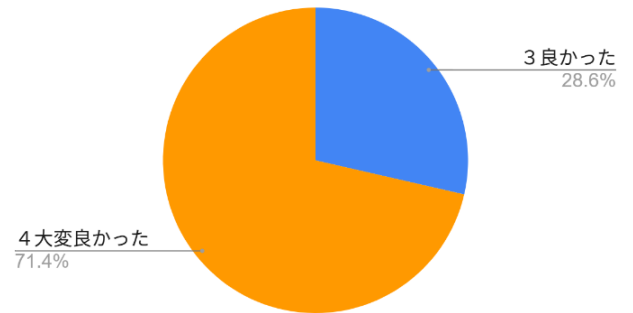
【アンケート のまとめ】



参加してよかったか

(理由)

- 防災におけるつながりの重要性を認識出来た。
- 普段では会えない(繋がらない)人と繋がれた。
- 普段の生活では知り合えない人と出会えた。
- ハザードマップの存在が知られていないことがわかった。
- 避難のことについて説明することができた。
- 初めてお会いする方々と顔合わせできて良かった
- 様々な活動や防災意識について知るコトが出来た。
- テーマが防災で活動内容にマッチしていたのと、開催場所がなみき牧場で新たなつながりができました。
- グループトークでは他の団体の方と懇談ができ、参考になりました。
- 地域における住民や関係機関同士のつながりの大切さを共有することができた。
- いろんな立場の人とつながれた。防災について備蓄について考えなおすきっかけになった。
- あらためて防災マップを皆さんと見る事が出来た。防災食も食べることが出来て良かった。
- 色々な意見が聞けて良かった。
- 様々なお立場、活動をされている方の視点での考えやアイデアを学ぶことができた。
- 防災マップの活用の仕方、世代違い、考え方のすり合わせが大事。
- 防災マップを見ながら、市内の防災体制・実情について理解できました。
- 地域の様々な団体の方と、顔を合わせて話が出来た。



(今後の懇談会のテーマとして取り上げたいこと)

- 緩やかな人のつながり方
- もっと防災
- 多様なはたらき
- さまざまな活動団体の紹介

【所感】

参加者は市内在住・在勤者が大半を占めたが、隣接市の関係機関からの参加もあり、地域連携のきっかけとなる有意義な機会となった。また、このような交流会では女性の参加が多い傾向にあるが、今回は「防災」をテーマとしたことから男性の参加が女性を上回り、防災への関心の高さや、テーマ設定による新たな参加層の開拓につながったと考えられる。アンケートの「参加してよかったか」では、「大変良かった」が7割を超え、全体として非常に高い評価を得ることができた。その理由として、「新たな出会いや交流の機会となった」「防災マップを改めて確認する機会になった」「地域のつながりの大切さを参加者同士で共有できた」といった意見が多く見られた。これらの結果から、防災を切り口とした交流の場は、防災意識の向上だけでなく、新たなつながりづくりや地域の支え合いを促進する場としても有効であることが伺えた。

【アンケートまとめ(全体)】

■ 住民一人ひとりが安心して暮らせるためにあなたができると思うことはなんですか。

(複数回答可)

見守りや声かけ	28
地域行事への参加や協力	22
ボランティア活動	19
話し相手や相談相手	17
防犯・防災に関する活動	11
寄付や募金	7
美化活動	6
わからない	2

■ 国分寺をより良い地域にするために、あなたが一番大切だと思うことはどれですか。

